# I 平成 29 年度事業総括

東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故の発生から7年。現在のいわき市は、復興 需要がピークアウトし、復興・創生に向け、まさに正念場を迎えております。

こうしたなか、創立 50 周年という大きな節目の年を迎えた平成 29 年度は、新たな手法に挑戦した「記念式典」を皮切りに、「いわき市中小企業・小規模企業振興基金」の創設、「いわき産業フェスタ」の開催、「若者チャレンジ応援助成事業」の実施、東北一夢・感動・未来に溢れた都市を目指した「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」の設立など、さまざまな新規プロジェクトに取り組みました。こうした一連のプロジェクトをベースとして、経営のイノベーション、人財のイノベーション、地域のイノベーションにつなげて参ります。

さらには、メイド in いわき復興大商談会、いわき企業活性化プロジェクト、いわきアカデミアなど、(1)強い企業の育成、(2)強い人財の育成、(3)強いまちの育成に向け、これまで重点的に取り組んできた事業につきましても着実に進展し、次のとおり一定の成果を挙げることができました。

## (1)強い企業の育成

①11月24~26日の3日間、いわき地域の産業振興と次世代を担う子ども達の育成を目的に、いわき商工会議所創立50周年記念事業として「いわき産業フェスタ」を開催しました。今回のイベントは、いわき市内企業と首都圏を結ぶ「いわき地域産業イノベーション展・ビジネスマッチングEXP02017」と新エネルギー産業創出をコンセプトとした「いわきバッテリーバレーフェスタ2017」の2つから構成されており、ビジネスマッチングにおいては、多数の市内企業が参加し、新たな取引や共同開発などへ向けた商談を行いました。また、バッテリーバレーフェスタにおいては、次世代自動車の展示・試乗会、トヨタ自動車協力による燃料電池の仕組みを学ぶ講座、燃料電池バスの試験運行などを行い多数の方に来場を頂き、地域企業の取引拡大と次世代エネルギーへの理解促進が図られました。

[いわき地域参加団体 26社、特別参加団体・企業 4社、首都圏・支援機関4団体、商談のみ参加企業1社 合計35社参加、商談回数26件のうち継続商談件数13件]



福島県初の運行をした燃料電池バス



いわきバッテリーバレーフェスタ 2017



ビジネスマッチング EXPO 2017

- ②東日本大震災により販路が絶たれた水産加工事業者、食品製造業者の生産・流通の再生を図るため、いわき商工会議所、宮城県商工会議所連合会、東北六県商工会議所連合会等が連携し、全国の百貨店、流通バイヤー等を被災地に招聘し、展示商談会・個別商談会を実施するとともに、被災地域の復興状況について視察を実施しました。
- ・日程 平成 29 年 9 月 21 日 (木) 展示商談会・個別商談会・交流懇談会 平成 29 年 9 月 22 日 (金) 市内視察
- ・会場 平成 29 年 9 月 21 日 (木) いわきワシントンホテル椿山荘 平成 29 年 9 月 22 日 (金) 市内視察 (道の駅よつくら港・ワンダーファーム)

[参加バイヤー数 21 社、出展事業者数 25 社 / 全 81 商談中、成立 11 件、継続商談 22 件]







商談会の様子

個別商談

市内視察会

③「中小企業・小規模企業振興条例」が制定されたのを受けて、当所と市内大手企業や金融機関等の民間が主導し、市と共に原資約 2000 万円を持ち寄り、7月7日、「いわき市中小企業・小規模企業振興基金」を創設しました。その基金原資を利用し、制度設計された「いわき市中小企業・小規模企業経営発達補助金」は、企業の新たな経営基盤構築など生き残りをかけた戦略的な取り組みを後押しして行くもので「現状認識→計画作成→実施・実践」まで一気通貫で商工団体・専門家・金融機関が様々な経営資源を投入しました。

[申請件数 35 件 / 採択件数 16 件]



「いわき市中小企業・小規模企業振興経営発達補助金」の概念図

④会員事業所の次世代経営者、経営を担う人材がマネジメント力を身に付けることを目的として、平成28年度に引き続き7月から半年間にわたり「企業活性化プロジェクト2017」を実施しました。講師に元富士フイルムHD・CFOの髙橋俊雄氏と元日本能率協会MOR本部長の佐藤滋氏らを招き、経営を「タテ型」から「ヨコ型」へと転換させる「場のマネジメント」を取り入れ、参加事業所の関係者らが競合分析、自社分析、目標の設定、短期経営戦略の策定まで全6回の研修会を通し学び、マネジメントを体得しました。研修会は2部構成で、第1部では髙橋氏が富士フイルムでも取り入れていた論理的思考による問題解決法(KT法)をテーマに講演し、参加者らが理論や個別事例を通して、問題の分析・対処法などについて理解を深めました。第2部は「場のマネジメント」の研修として、事業所ごとに分かれ、講師のアドバイスを受けながら「場」というツールを使用し自社を分析し、フラットな意見を出し合いつつ戦略を構築しました。

#### [参加企業数 6社]







最後に討議し合った成果を発表



戦略の根底をなす目標「あるべき姿」

⑤地域経済を支える中小・小規模事業者の事業承継総合窓口として「いわき事業承継支援センター」を設置(平成29年2月)しております。まずは、センター事業として事業所の事業承継現状(後継者の有無、事業承継の進捗状況等)把握について「事業承継診断シート」を活用し調査・分析しました。今後は、調査結果を基に各事業所へ専門家等と連携し具体的な支援を行っていきます。

# (2)強い人財の育成

①いわきアカデミア推進協議会は設立2年目を迎え、人財の地元定着と還流、いわきとつながり続ける人財の育成を目的とした様々なプロジェクトを着実に推進することができました。とくに、ほとんどが市外大学へ進学する高校の1年生を対象とした「いわき発見ゼミ」では、実際に企業や地域活動の現場を訪問し、仕事のありようを自分の目で見て、大人の人生観や職業観について生の声を聞き、内容や感想をまとめる作業を通じて、「郷土にどのような企業、歴史があるのか」、「地域が、日本が、世界が、どんな課題を抱えているのか」、「今努力している勉強が実社会でどのように役立つのか」、「自分が進むべき道は何か」、「自分の気持ちを伝えるためにはどのようなプレゼンが有効か」などを深く考える絶好の機会となりました。教育界、行政、地域団体、産業界が一体となり、市内小・中・高・大学生の一貫したキャリア教育プログラムの構築を目指した「いわきアカデミア」は、全国に先駆けた先進的な取組みとして各界からの注目度が高まってい

ます。

[いわき発見ゼミ参加者数(高校 1 年生) 597 名 / 未来の自分発見セミナー参加者 53 名 会社見学ガイドブック配布数(小学 3 年生・教諭) 3.583 部]



地域の歴史や企業、大人の人生観や職 業観を学ぶ「いわき発見ゼミ」



全国各地で活躍する地域活動家を招いた「未来の自分発見セミナー」



若者視点で地域活性化に取り組む 大学実践ゼミ

②市内企業の協賛・協力を頂き、いわきアカデミア推進協議会と連携を図りながら、青年部主催により、子どもたちが大人を頼らずに自分で考えて決める人財育成プログラム「ジュニアエコノミーカレッジ in いわき 2017」を実施しました。ルール学習セミナー、ビジネスマナー講習、1 泊 2 日の合宿など事前準備を丹念に行いながら、小学校 5・6 年生が1チーム5名で模擬株式会社を設立し、銀行借入れ、商品企画、仕入れ、販売、収支決算、納税といった一連のプログ



市内 GMS で商品販売を実践

ラムを体験しました。自分たちで考える楽しさ、買ってもらう楽しさ、仲間が増える楽しさ、大人の社会を体験する楽しさを、身をもって感じる機会を提供することにより、子どもたちの成長を後押ししました。

#### [参加小学校数 7校 / 参加児童数 50名]

③人財の確保が企業にとって大きな命題となるなか、復興関連産業を担う人財を育成する「いわきものづくり塾(廃炉コース)」、企業で活き活きと活躍する女性社員を支援する「女性かがやき塾」、中小企業の情報リテラシー向上に向けた「ICT セミナー」など、各部会および当所中小企業相談所の主催により、企業の屋台骨となる人財を育成する多様なセミナーを開催しました。



会話術セミナーのプログラムに挑戦 する参加者

[部会主催セミナー開催数 計 21 回 / 参加者数 延べ 459 名]

## (3)強いまちの育成

①いわき市の新たなグランドデザインとなる次期総合計画や第2次都市マスタープランの策定時期を迎えるなか、人口減少問題に対応し、真の豊かさを実感できる暮らしやすいまちづくりの実現に向け、市職員と若手経済人が共同で「暮らしやすいまちづくり」を考える研究会を発足しました。

とくに本年度は、他の中核市と比較しながら、いわき市の人口特性や都市構造を始め、健康・医療、産業特性、就業構造、



暮らしやすいまちづくり研究会

財政状況、公共施設整備等について、各種データに基づく基礎的な検討に取り組みました。次年度は、外部有識者を招き、若手経済人の政策形成能力を育成しながら、暮らしやすいまちづくりについて、さらに掘り下げた調査検討を行います。

#### [研究会・勉強会開催数 13 回 / 参加者数 延べ 313 名(メンバー数 30 名)]

②中心市街地平地区においては『人、暮らし、文化を大切にする豊かさと活力とを備えた中心市街地』を理念として掲げ、平成29年3月に、中心市街地活性化法に基づく「中心市街地活性化基本計画」の認定を受けました。このような取組みを広く周知し、多くの活性化プロジェクトを官民一体となり推進してくために、創立50周年記念事業いわき市中心市街地活性化協議会(平地区)「第2回キックオフイベント」を開催しました。

主要事業主体のプレゼンテーションでは、①いわき PIT イベント事業、②いわきこども大学 (dreamLab)、③子供プロジェクト事業 (未来会議)、④起業家支援事業 (ichi プロジェクト)、⑤文化芸術の発展事業 (ワンダーグラウンド)、⑥大型商業施設連携事業 (I-mail)、⑦まちなか循環バス運



キックオフイベント会場



ディスカッションの様子

行検討事業(たいらまちづくり株式会社)について説明を行い、中心市街地の活性化を 推進するための支援を行いました。

#### [キックオフイベント参加人数 127 名、実施継続プロジェクト 18 件]

③いわきスポーツクラブが掲げる「スポーツの力で、地域に活力を生み出し、社会を豊かにしよう」との理念に共感し、スポーツが持つ力を活用した東北一「夢・感動・未来に溢れる都市"いわき"」の実現に向けて、市や関係機関と連携しながら、10月11日、「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」を設立しました。近い将来、サッカー」リーグ入りが期待される「いわき FC」を応援するとともに、「いわき FC」が有する専門ノウハウやブランド力を活用した市民の健康増進、サッカーに限定しない子どもたちの幅の広い運動能力向上、関心人口の増加に向けたシティプロモーションの促進など、次年度に取り組む具体的な計画について検討を進めました。

#### [協議会会員数 70団体]



発起人6団体による設立宣言



機運醸成のためフラッグを各地に設置

④港区役所、港区を活動拠点とする NPO 法人 MOVE、いわき観光まちづくりビューロー等との連携により、いわき市と所縁のある港区に的を絞った"いわき"体験交流ツアーを (SPRING 編)3月26~27日、(SUMMER 編)8月4~5日、(観光ビューローとの共催/稲刈り編)10月29日に実施しました。四季折々の魅力を体感して頂きながら、地元住民等との交流を通じ、関心人口および将来的な定住二地域居住の拡大を推進しました。

[参加者数 (SPRING 編) 15 名 / (SUMMER 編) 83 名 / (稲刈り編) 20 名]



田人町貝泊地区での餅つき体験



太平桜酒造「絆」の原料「天のつぶ」 の稲刈り体験



沼之内地区こども獅子舞鑑賞

また、商工会議所の存在意義をアピールしながら、いわきが将来目指すべき姿を見据え、 経営支援、産業振興、地域振興、関心人口増加の観点から、今後の展開につながる創立 50 周年記念事業を次のとおり実施しました。

# (1) 未来に向けて発信する記念行事

①7月7日、いわきワシントンホテルにおいて、創立50周年記念式典を催行しました。斬新な手法とスマートな演出を取り入れながら、正副会頭の強いリーダーシップのもと、「福島県浜通り都市圏の中核を担う世界に誇れる復興モデル都市」を目指して行くことを商工会議所メッセージとして発信しました。また、式典終了後、祝賀パーティーを盛大に開催し、これまで商工会議所を支えて頂いた皆さまと一緒に50年の節目を祝いました。

[参加者数 来賓 155 名 / 主催者 107 名 / 計 262 名]







会頭プレゼンテーション

次の 50 年に向けた はなむけの言葉

祝賀パーティー

②創立以来、商工会議所が取り組んできた事業活動や50年に亘る地域および産業の軌跡を振り返る「写真で綴る50年のあゆみ」、震災後に商工会議所活動指針として策定した「地域振興ビジョン2014」、いわきの未来に向けた提言等を掲載した記念誌を発刊し、会員事業所や関係機関に配布しました。



記念誌の表紙



50年の軌跡を写真で紹介

# (2) 中小企業の経営力強化に向けた事業

- ①いわき産業フェスタの開催(前掲)
- ②メイド in いわき復興大商談会の開催(前掲)
- ③いわき市中小企業・小規模企業振興基金の創設(前掲)

### (3) 地域振興・関心人口増加に向けた事業

①未来の地域や企業を支える人財の育成、深刻な状況にある観光の再生、超高齢化社会や 人口減少問題への対応、コンパクトシティづくりなどに取り組む若者主体のグループに 対して、上限25万円の助成金を交付する「若者チャレンジ応援助成事業」を実施しまし た。必要に応じて商工会議所職員もプロジェクトに参画しながら、多種多様な地域課題 の解決に向けて若者が積極的に取り組むプロジェクトのスタートアップをサポートしま した。

#### [支援プロジェクト数 10 個 / 支援グループ構成総人数 135 名]



いわき明星大学生による観光 PV 制作



いわき湯本温泉若旦那によるスポーツ 芝浦工大学生の協力を得たうえだ復興 合宿誘致の調査検討



プロジェクト

- ②「いわき市中心市街地活性化基本計画(平地区)」推進事業の実施(前掲)
- ③子どもたちの郷土愛を育むプロジェクトに注力する一方、子どもたちに影響力のある親 世代が、地元企業や歴史文化の魅力について、楽しみながら学ぶことにより、重層的に 故郷への誇りや愛着心を高めることを目的としたツアーを企画しました。会員事業所を 対象として、11月15日(常磐/内郷コース)、11月28日(小名浜コース)の紅葉の季節、 名前は知っていても実際にどのような活動をしているかまでは知らない地元有力企業、 めったに訪れることのない隠れた歴史・観光資源、最近開発された話題の施設・スポッ トを巡りました。

#### [参加人数 (常磐/内郷コース)37名 / (小名浜コース)23名]



弥勒沢炭鉱資料館



建設中の小名浜港東港



国指定天然記念物/中釜戸シダレモミジ

④ "いわき"体験交流ツアーの実施(前掲)